








うめだ・あけぼの学園

2016年9月1日 アセスメントチーム作成

発達評価 知能検査	対象	<ul style="list-style-type: none"> ・全員（年に1回）
	目的・内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんの状態を保護者の方と療育担当者が共通に理解し、支援の方向性を一緒に考えるために行います。 ・検査者は、検査課題に取り組むお子さんの様子、検査の課題について「できた」「できない」というだけではなく、どのようにできたか、どのように失敗したか、どのようにすればできるようになるのかということを見させていただきます。 ・「お子さんの発達上の長所」「今伸びつつあるところ」「支援が必要なところ」「自閉性の有無やその程度」を明らかにしていきます。
視覚評価 	対象	<ul style="list-style-type: none"> ・「目を細めたり首を傾けたりして物を見る」「段差や床の色が変わる場所で立ち止まってしまう」「注意が逸れやすい」「端っこを見落としやすい」「パズルや積み木遊びを嫌がる」「ブロックなどを見本通りに組み立てるよりも、自分の好きなように作りたがったり、左右が逆になってしまう」「文字の読み間違いや、書き間違いが多い」といった、気になるところがあるお子さん。
	目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・病院で視力が測れないと言われた場合でも、発達に合わせた視力検査を行うことができます。 ・目の使い方や、見えやすい・意識しやすい範囲、空間や形などの視覚情報の捉え方の特徴、思考の特徴を、遊びを通してチェックし、どのようなサポートが必要なのかをアドバイスしていきます。
ST（言語） 評価 	対象	<ul style="list-style-type: none"> ・理解はしているが、話しことばがまだ少ないお子さん。 ・発音や吃りが気になるお子さん（2～3語文の表出が可能）。
	目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・発音や吃り、コミュニケーションの様子を評価し、ご家族と一緒に方針を考えます。

食事評価	対象	<ul style="list-style-type: none"> ・「離乳食をステップアップしたい」「噛めているかしら」「丸呑みしている」「上手にすくえない」「姿勢が崩れてしまう」「好き嫌が多い」「食べる量が多い／少ない」といった、気になるところがあるお子さん。
	目的・内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する不安に対して、実際に食べている様子を見させていただいたり、ご家庭での食事内容や様子を聴取したりしながら、評価します。そして、保護者の方や関係職員と一緒に今後の方針を考えます。
OT (作業療法) 評価	対象	<ul style="list-style-type: none"> ・「物を触ろうとしない」「物でうまく遊べない」「不器用だな」「はさみ、箸などの道具をうまく使えない」「手元をよく見ない」といった、気になるところがあるお子さん。
	目的・内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の背景にあるものと必要なサポートを探ります。 ・ご家庭でできるようなちょっとした遊びや設定の工夫を紹介します。
SI (感覚統合) 評価	対象	<ul style="list-style-type: none"> ・「触られることを嫌がる」「人と遊ぶのが苦手」「遊びがワンパターンになり、なかなか広がらない」「走り回ってしまう」「パワフルだったり、眠そうだったり…」といった、気になる行動があるお子さん。
	目的・内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の背景にあるものを探ります。 ・どのようなことでお子さんが困っているのか、どうすればお子さんが捉えている世界や遊びが広がるのか、関わり方のヒントを提案します。
PT (運動) 評価	対象	<ul style="list-style-type: none"> ・運動もしくはSI 個別がない、運動が気になる（転びやすい、階段を足を揃えて昇り降りする、まっすぐ歩いていない等）お子さん。
	目的・内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動発達の特徴を捉えます（移動方法、活動しているときの姿勢のとり方、筋肉状態・使い方）。 ・日常生活場面での椅子・机など生活用具・インソールの検討・作成・調整、靴の紹介・調整などを行います。 ・できるできないではなく、どんなふうにも動いているのか、何が苦手で動きにくいのか、動きやすくなるためにどんなことができるのか、本人がしたいと思うことがしやすい身体を作っていくには今何が必要なのかを考えていきます。 ・家庭や生活のいろいろな場面で遊びをより自発的に、効果的に行うための姿勢や運動の調整を行います。 ・上記に加えて、食事やトイレなどの日常の活動を行いやすくすること、健康の維持に必要な運動機能を保つこと、長期的なスパンで筋肉や関節を大事に使うこともふまえてアドバイスを行います。